

「聖学院教育の理想」

使徒言行録 6 章 55～60 節

聖学院中学校高等学校チャプレン 久保 哲哉

人々はこれを聞いて激しく怒り、ステファノに向かって歯ぎしりした。ステファノは聖霊に満たされ、天を見つめ、神の栄光と神の右に立っておられるイエスとを見て、「天が開いて、人の子が神の右に立っておられるのが見える」と言った。人々は大声で叫びながら耳を手でふさぎ、ステファノ目がけて一斉に襲いかかり、都の外に引きずり出して石を投げ始めた。証人たちは、自分の着ている物をサウロという若者の足もとに置いた。人々が石を投げつけている間、ステファノは主に呼びかけて、「主イエスよ、わたしの霊をお受けください」と言った。それから、ひざまずいて、「主よ、この罪を彼らに負わせないでください」と大声で叫んだ。ステファノはこう言って、眠りについた。

1. 学校法人聖学院 120 周年

今年度は学校法人聖学院 120 周年の記念の年です。そのため、駒込銀座商店街には「駒込と共に、聖学院は 120 周年」と記された 21 本の旗を掲げています。この光景を見ながら 120 年前に聖学院はどのように始まったのかと考えつつ、学校に向かっているからでしょうか。今年の夏は仕事や研修で聖学院の原点を振り返る機会が多くなりました。

2. 本郷・築地フィールドワーク

印象深かったのは、7 月 22 日の終業式後に、男子・女子聖学院の有志生徒たちと一緒に聖学院の創立に関わった宣教師たちの思いやヴィジョンを学んだ後に、聖学院神学校発祥の地である本郷と、女子聖学院発祥の地である築地においてフィールドワークを行ったことです。そのための事前学習では、聖学院の草創期を支えた宣教師たちが何を使命としていたかを学びました。かつては「聖人を養成する」と表現されていた聖学院の使命が「神を仰ぎ 人に仕う」という建学の精神となり、現代においては「賜物」や「Only One for Others」という言葉に語り直され、私たちに受け継がれていることを確認することができました。

3. 秋田歴史探訪

また、8 月 7 日～9 日には聖学院の草創期を支えた宣教師たちの足跡を辿るために秋田に行ってきました。聖学院の源流は、その創立の 20 年前の 1883 年、ディサイプルス派の宣教師であるチャールズ・E・ガルストとジョージ・T・スミス夫妻の秋田での働きにあります。当時、秋田には宣教師が 1 人も入っていなかったため、彼らは秋田を選んだということでしたが、そうした開拓精神に触れる旅となりました。

まず注目したいのは宣教師ガルストの人柄です。ガルストは軍人から宣教師となった異色の経歴を持つ方で、様々な逸話が残されています。たとえば、教会の方の葬儀のために、秋田市内から約 100 キロの道のりを豪雪の中、徒歩で向かったとか、当時の秋田は貧困に苦しむ人が多く、10 人家族で妻が病に伏していた月収 2 円の織工(当時の平均月収は 20 円ほど)を救済したとか、多くの政治家や社会活動家の相談役になったため、内閣総理大臣であった伊藤博文が「西洋は未だかつてチャールズ・E・ガルストに勝る贈物を送ったことはない」と語ったとされています。ガルストは晩年、死を前にして遺言を求められた際に「My life is my message」と語ったとされますが、こうした Only One 精神を受け継ぎたいのです。

ただ、秋田での伝道が困難を極めていたからでしょうか。ディサイプルス派は宣教の場を東京に移しました。この方向転換がなければ、駒込での教育活動はなかったと思うと、神の御心の不思議さを実感します。きっとアメリカのディサイプルス教会内で多くの祈りがささげられたのでしょう。本郷キリスト教会内を仮校舎としていた聖学院神学校(英名・ドレーク・バイブルカレッジ)のために1万ドルもの献金が献げられ、紆余曲折ありながらも滝野川村に土地が与えられました。また、同じディサイプルス派の宣教師、バーサ・クローソンによって 1905 年から築地において教育活動を行っていた女子聖学院神学校(英名・マーガレット・K・ロング・ガールズ・スクール)も様々な事情で移転が必要となり、不思議にも聖学院神学校の隣接地を取得したことで、聖学院中高と女子聖学院はともに駒込の地で教育活動を展開してきました。戦争や関東大震災という困難を乗り越え、現代まで続く聖学院精神を受け継ぎたいと強く思いました。

4. 聖学院精神

最後に触れたいのは、聖学院中学校の初代校長の石川角次郎の言葉です。石川先生は「20 年の回顧」と題した文章において「本校の理想は聖人を養成することである。(中略)若し聖人という者が、我等凡人には到底なれない者ならば、それは珍しいというだけのもので、余り価値はない。何人でも其学を修め其道を行へば、それに成れるのでなければならぬ」と語りました。

本日読んだ使徒言行録ではステファノという弟子がまるで主イエスのような振る舞いを見せてその生涯を閉じましたが、聖学院を支えた宣教師の方々の生涯もまた、私たちにたくさんのメッセージを残しています。聖霊が働くならば、私たちも主イエスのように、聖人に、Only One を体現する人間に成ることができるのです。これは大きな励ましの神の御言葉です。

学校法人聖学院 120 周年の記念の年です。主の助けと守りを全身に受けながら進んで行きましょう。皆さんの上に主の祝福を祈っています。

2023 年 9 月 9 日 聖学院中学校高等学校全校礼拝